

## 各教員が有する学位、業績、担当科目

### 【プール学院大学】

氏名	飯田 真人
学位	芸術学修士
担当科目	教科図画工作、初等図画工作、図画工作科教育法、造形表現指導法、保育内容（造形表現）、教育学専門演習
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シンポジウム「ヨハネス・イッテンと現在 学校現場と美術館教育の視点から」（京都国立近代美術館 2003 年 11 月）</li> <li>2. 「豊かな感性を育む造形遊びの可能性」, 京都府総合教育センター研究紀要第 4 集平成 26 年度</li> <li>3. 「創造的な技能の育成における課題とその改善」座談会初等教育資料 2016 年 1 月号</li> <li>4. 作品発表 京展（京都市美術館 2010-12）、京都・洋画の現在～85 人の視点～（京都文化博物館 2007）、Nine young artists from Japan（オーチャドギャラリー北アイルランド 1994）、Vector（寛勲美術館ソウル 1995）、NETWORK21C（ソリ文化の殿堂全州）、他東京・京都・大阪で個展</li> </ol>

氏名	磯島 秀樹
学位	教育学修士
担当科目	特別活動論（小）、教育実習指導（小）、教育実習 1（小）、教育実習 2（小）、教職実践演習（幼・小）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「新学習指導要領を踏まえた人権教育の展開－特別活動に焦点を当てて－」（共著）, プール学院大学研究紀要 Vol.53pp.317～339, 2013 年 3 月</li> <li>2. 「特別活動のあり方についての一考察」, プール学院大学研究紀要 Vol.55pp.153～167, 2014 年 12 月</li> </ol>

氏名	今宮 信吾
学位	学校教育学修士
担当科目	教科国語、初等国語、国語科教育法、国語科教育法2、国語科教育法3、教育実習指導(小)、教育実習1(小)、教育実習2(小)、教職実践演習(幼・小)
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『ことばの学習プリント高学年』(共著)(フォーラムA)2009年</li> <li>2. 『ことばの力をつける詩の授業』(単著)(フォーラムA)2010年</li> <li>3. 『小学生の国語』(小学校国語教科書)(共著)(三省堂)2011年～2014年改定</li> <li>4. 『思考ツール』(共著)(さくら社)2013年 pp75-77</li> <li>5. 『思考ツールを使う授業』(共著)(さくら社)2013年 pp30-33</li> <li>6. 『小学校例解国語辞典第6版(共著)(三省堂)2014年</li> <li>7. 『小学校例解漢字辞典第5版(共著)(三省堂)2014年</li> <li>8. 『書けない子も書けるようになる！コンパクトに書く国語科授業モデル』(共著)(明治図書)2015年</li> </ol>

氏名	植野 雄司
学位	Ph. D. (人類学)
担当科目	異文化間理解論
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「『住民の視点から』理解することの実践—『個人間経験の民族誌』に向けて」, プール学院大学研究紀要 Vol. 54 pp. 137～148, 2013年12月</li> <li>2. 「民族史的経験と人類学—『ネイティブになること』について」, プール学院大学研究紀要 Vol. 51 pp. 71～80, 2011年12月</li> <li>3. 「宗教現象研究における方法論的問題に関する一考察」, プール学院大学研究紀要 Vol. 50 pp. 71～83, 2010年12月</li> <li>4. 「人類学における経験への回帰の系譜」, プール学院大学研究紀要 Vol. 49 pp. 85～100, 2009年12月</li> <li>5. 「国際文化学的确立—シンポジウムと考察」(共著), 龍谷大学国際社会文化研究所紀要 Vol. 10 pp. 203～250, 2008年5月</li> <li>6. 「学問分野としての『国際文化学』的确立」(共著), 龍谷大学国際社会文化研究所紀要 Vol. 9 pp. 233～248, 2007年5月</li> </ol>

氏名	臼井 正幸
----	-------

学位	教育学修士
担当科目	教職概論、教育課程論（幼・小）、教育実習指導（小）、教育実習1（小）、教育実習2（小）、教職実践演習（幼・小）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教職10年経験者研修における研修設定に関する研究」, 大阪教育大学教育経営学研究会 教育プロジェクト研究 2006ー学力認識と学力向上戦略ー, pp.49~60, 2007年3月</li> <li>2. 「教職10年経験者研修における校内研修の研修設定に関する考察」, 大阪教育大学実践教育講座 大阪教育大学実践教育研究第10号, pp.53~63, 2008年3月</li> <li>3. 「教師の専門的文化の伝承に関する一考察」, スクールリーダー研究会 スクールリーダー研究第1号, pp.10~18, 2010年3月</li> <li>4. 「教職基礎形成期における教職意識の内実に関する一考察ー実践的授業とかかわってー」, 大阪教育大学実践教育講座 大阪教育大学実践教育研究第15号, pp.1~12, 2013年3月</li> </ol>

氏名	梶井 大輔
学位	教育学修士
担当科目	初等体育、体育科教育法、水泳、体育実技1、体育実技2
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「動いているボールを打つ学習指導に焦点を当てた授業計画とその実践」体育科教育, 大修館書店, Vol.10, 2013</li> <li>2. 「小学校における動いているボールを打つ指導法の考察ー高学年のバッティング指導においてシンクロ打法を用いた実践を通してー」, 大阪教育大学紀要第V部門教科研究, Vol.60, No.2, pp.23-30, 2012</li> <li>3. 「伝承遊びを授業に取り入れ生活化を図る」体育科教育, 大修館書店, Vol.1, 2011</li> <li>4. 「伝承遊びの要素を活かす『多様な動きをつくる運動』」体育科教育, 大修館書店, Vol.6, 2010</li> </ol>

氏名	金森 裕治（非常勤講師）
----	--------------

学位	教育学修士 実践学校教育専攻
担当科目	視覚障害教育論
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『特別支援教育の基礎と動向』(共著), 培風館, 2007年10月 pp.43-52</li> <li>2. 『特別支援学校 新学習指導要領の展開』(共著), 明治図書, 2009年9月 pp.35-37, pp.62-66, pp.88-91, pp.125-128, pp.184-189</li> <li>3. 『特別支援教育総論』(共著), 風間書房, 2015年10月 pp.57-67 pp.79-89</li> <li>4. 「特別支援教育におけるマルチメディアデイジー教科書を活用した実践および評価方法に関する研究(第Ⅱ報)」大阪教育大学紀要 第Ⅳ部門 教育科学 62(1) pp.87-103, 2013年9月</li> <li>5. 「小学校における視覚障害理解教育に関する実践的研究—小学3年生への授業実践を通して—」大阪教育大学紀要 第Ⅳ部門 教育科学 64(2) pp.13-28, 2016年2月</li> </ol>

氏名	児玉 達郎 (非常勤講師)
学位	音楽修士
担当科目	ピアノ1、ピアノ2、ピアノ5、ピアノ6
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「音楽教育の実践と成果・展望 - 本学子ども教育学科生を対象として(第一報) -」(共著), プール学院大学研究紀要第48号 pp.129-143, 2008年12月</li> <li>2. 「音楽教育の実践と成果・展望 - 本学子ども教育学科生を対象として(第二報) -」(共著), プール学院大学研究紀要第49号 pp.253-265, 2009年12月</li> <li>3. 「音楽教育の実践と成果・展望 - 本学子ども教育学科生を対象として(第三報) -」(共著), プール学院大学研究紀要第50号 pp.229-241, 2010年12月</li> <li>4. 「子どものピアノ指導において音楽性と演奏技術をいかにして育成すべきか - 初級練習曲教材の使用についての一考察 -」, 常磐会学園大学研究紀要第13号 pp.19-30, 2013年3月</li> </ol>

氏名	後藤 幸弘 (非常勤講師)
----	---------------

学位	医学博士
担当科目	運動学
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体接触を伴う運動「組ずもう」「カバディ」の教育的効果について—「筋出力制御力」「重量弁別能力」「二点識別能力で見た体制感覚を中心に」—、兵庫教育大学研究紀要、45、147-154、2014年9月</li> <li>2. 身体接触を伴う運動「組ずもう」の教育的効果とその学年差-小学校3・3・4・5年生を対象として-、日本教科教育学会誌、37(3)、85-98、2014年12月</li> <li>3. バドミントンのショット(技術)の構造化の試み、宮崎大学教育文化学部附属教育協働共同開発センター研究紀要、23号、107-113、2015年3月</li> <li>4. ランニングのバイオメカニクス総論、宝塚医療大学紀要、第2号、117-128、2015年3月</li> </ol>

氏名	小餅谷 哲男
学位	芸術学修士
担当科目	ピアノ1、2(声楽担当)
主な業績 (演奏)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成26年4月 小餅谷哲男 テノールリサイタル 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール テノール独唱： ヴェルディ作曲「ストルネッコ」、ロッシニ作曲「踊り」他 松村禎三作曲「貧しき信徒」、シューマン作曲「詩人の恋」 伴奏：越坂ゆかり 主催：フェリーチェ音楽院</li> <li>2. 平成26年8月「長崎の教会郡とキリスト教関連遺産」 世界遺産登録推進コンサート“世紀を超えた歴史ロマン” 平戸文化センター(長崎県) ベートーベン第九 テノール独唱 指揮：西本智実 IlluminArt Philharmonic Orchestra 共演：駒井ゆり子、相可佐代子、須藤慎吾 主催：世界遺産登録推進コンサート実行委員会 後援：文化庁、長崎県、長崎県教育委員会、NHK長崎放送局 他</li> <li>3. 平成27年2月 NHK「ベスト・オブ・クラシック」公開録画 栗東芸術文化会館さくら テノール独唱 ウェルディ作曲 歌劇“ドン・カルロ”より「彼女を失った」 共演：尾崎比佐子、榎貴志、藤江佳子 主催：NHK大阪放送局、栗東市、栗東芸術文化会館さくら (NHK BSプレミアム「クラシック倶楽部」にて平成27年3月放送 “関西を代表するオペラ歌手によるヴェルディ・オペラコンサート”)</li> <li>4. 平成27年6月(27日、29日)新国立劇場 2014/2015 シーズンオペラ「沈黙」 新国立劇場オペラパレス 松村禎三作曲 歌劇「沈黙」ロドリゴ役 指揮：下野竜也 演出：宮田慶子 東京フィルハーモニー交響楽団 共演：黒田博、成田博之、星野淳、吉田浩之、高橋薫子 主催：新国立劇場 芸術監督：飯守泰次郎 (NHK BS「プレミアムシアター」にて平成27年9月放送)</li> </ol>

氏名	坂井 美恵子（非常勤講師）
学位	学位 修士(リハビリテーション)(筑波大学)
担当科目	聴覚障害教育論
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 黎明期の聴覚障害教育 恕にはじまる, (共著「聴覚障害教育の歴史と展望」), 風間書房 2012年</li> <li>2. CD『寫音レコードあゆみ』, (共著) 大阪府立生野聴覚支援学校歴史編纂委員会, 2009年</li> <li>3. 3府の盲啞学校則：京都・大阪・東京の盲啞学校教育の共通性と相違点, (単著), ろう教育科学 54(4), 173-193, 2013-03</li> <li>4. 開合図から考える明治初期の聾啞児の発声指導, (単著), 奈良女×文化 2014, pp114-125, 2015-03</li> <li>5. 蔵書目録「いしぐろ文庫」に関する考察, (筆著), ろう教育科学 57(3), 95-117, 2015-10</li> </ol>

氏名	島寄 佑（非常勤講師）
学位	スポーツ健康科学修士
担当科目	球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Evaluating the risk of a fifth metatarsal stress fracture by measuring the serum 25-hydroxyvitamin D levels in university soccer athletes: a case-controlled study in Japan. Yu Shimasaki, Masashi Nagao, Takayuki Miyamori, Yukihiro Aoba, Norifumi Fukushi, Yoshitomo Saita, Hiroshi Ikeda, Sung-Gon Kim, Masahiko Nozawa, Kazuo Kaneko, Masafumi Yoshimura. Foot and Ankle International. 2015.11, 査読あり</li> <li>2. The Role of Soccer in Slowing the Decline of Visual Function Caused by Aging:a Study of Young and Middle-aged Subjects. Mitsuru Nakamura, Masafumi Yoshimura, Yukihiro Aoba, Masaki Nakano, Yu Shimasaki. Human Performance Measurement. Vol.11,1-7.2014.12（オンラインジャーナル）日本体育測定評価学会,査読あり</li> </ol>

氏名	鈴木 亜希子（非常勤講師）
----	---------------

学位	芸術博士
担当科目	ピアノ 1、ピアノ 2
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロベルト・シューマン「アベッグ変奏曲」op. 1 ー愛の憧憬と音楽テクスト、初版に基づくエディション研究ー（博士論文），大阪芸術大学, 2008年3月</li> <li>2. ベートーヴェン「ワルトシュタイン」の演奏法に関する研究ー楽器学的観点を中心としてー（平成21年度 塚本学院教育研究補助費研究成果論文），大阪芸術大学, 2010年6月</li> <li>3. 鈴木亜希子ピアノリサイタル, 一乗寺(大阪市), 2009年5月</li> <li>4. 日本テレマン協会 新春特別演奏会 ピアノ協奏曲の響宴, いずみホール(大阪市), 2012年1月</li> <li>5. 日本テレマン協会 特別演奏会 ピアノ協奏曲の響宴, いずみホール(大阪市), 2014年2月</li> </ol>

氏名	竹野内 倫子（非常勤講師）
学位	英語教授法修士
担当科目	English1、English2、Reading&Writing3、Reading&Writing4 総合英語 1，総合英語 2

氏名	田中 あき子（非常勤講師）
学位	教育学士
担当科目	初等生活、教科生活、生活科教育法

氏名	田中 讓（非常勤講師）
----	-------------

学位	博士（学校教育学）
担当科目	野外活動
主な業績	<p>①「ボールやグラウンドを工夫したサッカーの授業」『体育科教育』第42巻7号</p> <p>②「「わかる」と「できる」を目指した女子サッカーのカリキュラムと教材づくり」『体育科教育』第52巻14号 pp.44-47.</p> <p>③「課題解決的学習におけるALT=PEと平均心拍数との関係：小学校高学年の陸上運動教材について」大阪体育学研究第47巻 pp.27-38.</p> <p>④「球種の違いが高校生のサッカー授業（ゲーム）に及ぼす運動強度への影響について—弾みにくいボールと通常のボールの比較から—」教育実践論集 第10号 pp.195-205.</p> <p>⑤「課題解決的学習における運動量確保に関する研究—高学年児童のサッカーの授業を対象にして—」日本教科教育学会誌 第32巻第4号 pp.1-9.</p> <p>⑥「サッカー「課題ゲーム」の運動強度の検討—体力の向上にも配慮した学習過程の作成に向けて—」日本教科教育学会誌 第33巻第2号 pp.31-40.</p> <p>⑦「サッカー「課題ゲーム」を用いた課題解決的学習の成果—高学年児童の体力向上に焦点化して—」日本教科教育学会誌 第34巻第2号 pp.41-50.</p>

氏名	田原 昌子
学位	教育学修士
担当科目	初等音楽・音楽科教育法・音楽科教育法2・保育内容（音楽表現）・教育実習指導（幼）・教育実習1（幼）・教育実習2（幼）・教職実践演習（幼・小）・ピアノ3・ピアノ4・ピアノ5／ピアノ6
主な業績	<p>1. 『子ども教育への試論』（共著），日本文教出版，2006年11月</p> <p>2. 「我が国の音楽科教育法に関する研究 II—「聴く耳」を育む音楽科教育法—」，プール学院大学研究紀要 Vol.53 pp.73～87，2013年3月</p> <p>3. 「フィンランドの音楽教育 II—小学校音楽科教材に関する考察 3—」，プール学院大学研究紀要 Vol.54 pp.47～62，2013年12月</p> <p>4. 「子どもの表現のためのピアノ伴奏法 I—初級者を対象としたピアノ伴奏力養成について—」，プール学院大学研究紀要 Vol.55 pp.123～137，2014年12月</p>

氏名	津國 直樹（非常勤講師）
----	--------------



学位	芸術学修士
担当科目	ピアノ1、ピアノ2

氏名	徳永 亜希雄（非常勤講師）
学位	博士（生涯発達科学）
担当科目	肢体不自由教育論Ⅰ，肢体不自由教育Ⅱ
主な業績	<p>1. Special Education Program for students with Physical Disabilities through a Community Support Network: Case Study of Social Resource Management at Special Schools, NISE Bulletin Vol.8, pp11-20, 2007年9月</p> <p>2. ICF-CY の観点からの特別支援教育関連研究動向分析の試み—肢体不自由教育領域を中心に—, 国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第36巻, pp97-107, 2009年3月</p> <p>3. 肢体不自由教育にかかわる教員の専門性に関する先行研究について, 国立特別支援教育総合研究所「肢体不自由のある子どもの教育における教員の専門性向上に関する研究—特別支援学校（肢体不自由）の専門性向上に向けたモデルの提案—」成果報告書, pp11-16, 2010年3月</p> <p>4. 障害の重い子どもの授業作り Part 4（共著）, ジアース教育新社, pp41-50, 2011年11月</p> <p>5. 「特別支援教育総論 歴史, 心理・生理・病理, 教育課程・指導法, 検査法」（共著）風間書房, pp196-205, 2015年10月</p>

氏名	長沼 俊夫（非常勤講師）
学位	修士リハビリテーション
担当科目	肢体不自由者の心理・生理・病理
主な業績	<p>1. 「特別支援教育の基礎・基本新訂版」（分担執筆）, 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, 2015年1月</p> <p>2. 「新重複障害教育実践ハンドブック」（共著）, 全国心身障害児福祉財団, 2015年3月</p> <p>3. 「よくわかる肢体不自由教育」（共著）, ミネルヴァ書房, 2015年4月</p>

氏名	永渕 泰一郎（非常勤講師）
----	---------------

学位	学校教育学修士
担当科目	保育内容（環境）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「レッチョ・エミリアって知ってる？」『教育ジャーナル』 単著，くらむぼん，2012年4月25日号 pp.4, vol.98</li> <li>2. 『保育者養成シリーズ「保育・教育課程論」』共著，一藝社， 2012年8月</li> <li>3. 「進級・進学の見通しを持った保育と環境づくりについて」 〔保育のスキルアップ塾〕共著『月刊保育とカリキュラム 2月号』第62巻2号ひかりのくに2013年2月</li> <li>4. 「今一度、保育の原点に立ち戻って……保育の『環境づくり』を考える」 〔保育のスキルアップ塾〕共著『月刊保育とカリキュラム2月号』第 63巻2号，ひかりのくに 2014年2月</li> <li>5. 『保育実践に生かす保育内容「環境」』共著，保育出版社2014年3月</li> <li>6. 『実践保育内容シリーズ⑥造形表現』共著，一藝社，2014年3月</li> <li>7. 『保育者養成シリーズ「乳児保育」』共著，一藝社，2015年4月</li> </ol> その他、多数

氏名	中村 浩也
学位	博士（教育学）
担当科目	球技 I（ネット型スポーツ）、アスレティックトレーニング論、教育実習 指導（中・高）、教育実習 1（中・高）、教育実習 2（中・高）、教職実践 演習（中・高）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト 第8巻「応急 処置」』，文光堂，2007年3月</li> <li>2. 大学におけるスポーツ傷害の発生動向に関する研究，教育医学 58(3)， 291-300，2013年2月</li> <li>3. 大学バレーボール競技におけるスポーツ傷害の発生動向に関する研究，教育 医学58(2)，207-216，2012年10月</li> <li>4. 大学におけるスポーツ傷害の疫学的研究ーアスレティックトレーニング支 援の可能性ー，プール学院大学紀要第52号，227-237，2012年12月</li> <li>5. 学校教育機関におけるアスレティックトレーニング支援モデルに関する実 践的研究，浜松大学健康プロデュース雑誌，4(1)，29-35，2010年3月</li> </ol>

氏名	中村 真由美
----	--------

学位	文学修士 修士（英文学）
担当科目	英語科教育法 1、英語科教育法 2、教育実習指導、教育実習 1、 教育実習 2、教育実践演習（中・高）
主な業績	1. 「書評 John Flowerdew & Lindsay Miller 著 Second Language Listening: Theory and Practice」, プール学院大学研究紀要 Vol. 45, pp.189~192, 2005 年 12 月 2. 'Linguistic Accuracy in Spoken English: Findings from the Listening & Speaking Oral Assessments', Curricular Innovation (Poole Gakuin University English Education Research Bulletin) pp.87~101, 2008 年 3 月

氏名	灘本 雅一
学位	博士（学術）
担当科目	球技Ⅲ（ベースボール）、運動生理学、教育実習指導（中・高）、教育実習 1（中・高）、教育実習 2（中・高）、教職実践演習（中・高）
主な業績	1. 筋力運動で用いる自覚的疲労スケールの開発とトレーニングへの応用. 体育測定評価研究 9 : 23-31, 2010 年 3 月 2. 1 2 年間の横断的及び縦断的データからみた高齢者の体力の加齢に伴う変化. 教育医学 56 : 160-170, 2010 年 10 月 3. 8 秒間の自転車全力ペダリングテストの信頼性と妥当性および無酸素性ピークパワーの加齢変化. 体育測定評価研究 10 : 51-59, 2011 年 3 月 4. 活動筋の自覚的疲労感を強度の指標とした自重負荷トレーニングの有効性：中高年者を対象とした無作為化比較対照試験による検討. 体育学研究 57 : 191-199, 2012 年 6 月 5. 自覚的疲労スケールを用いた複合的なトレーニングが下肢の筋機能に及ぼす効果の年代比較. 教育医学 58 (3) : 255-263, 2013 年 3 月 6. 高校野球の攻撃形式(戦術)の構造化と戦術選択の要因について. コーチング学研究 27 : 89-97, 2013 年 6 月 7. 中高年男性における静止立位時の姿勢保持能力と下肢筋パワー発揮様式との関係. 体育測定評価研究 13:9-16, 2014 年 3 月

氏名	西田 円（非常勤講師）
学位	体育学修士
担当科目	スポーツ心理学、水泳
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『Factors associated with helplessness among Japanese collegiate swimmers.』 Psychological Reports Perceptual and Motor Skills, 2004, 99</li> <li>2. 『主観的に再現した泳速の変化がクロールのストロークに与える影響』（共著），天理大学学報 236 輯，49-56，2014 年 2 月</li> <li>3. 『大学生競泳選手のセルフ・エフィカシー尺度作成の試み』，天理大学学報 239 輯，1-7，2015 年 2 月</li> </ol>

氏名	野口 佳子
学位	教育学修士
担当科目	知的障害者の心理・生理・病理、教育実習指導（特別支援）、教育実習（特別支援）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ボディマップの形成と認知の発達について—動作法による A 児とのやり取りを中心に—」 大阪教育大学大学院修士論文，2005 年 1 月</li> <li>2. 「知的障害のある子どもへの動作法によるアプローチ」（共著論文）『大阪教育大学紀要』第 58 巻 第 1 号、pp.1-6. 2009 年 9 月</li> <li>3. 「知的障害児の数量感覚に関する実践的研究 第 X 報」（共著論文）『大阪教育大学紀要』第 59 巻 第 1 号、pp.81-87. 2010 年 9 月</li> <li>4. 「環境の把握を中心とする指導内容・方法 Q56」全国特別支援学校肢体不自由教育校長会編著「障害の重い子どもの指導」ジアース教育新社、pp.102-103（共著書）2011 年 11 月</li> <li>5. 「学習活動 算数・数学、長さとかさ—主体的な体験から学ぶ数量感覚」明治図書編「特別支援教育の実践情報 6-7 月号 No.160」（共著書）明治図書、pp. 46-47. 2014 年 7 月</li> <li>6. 「就学前幼児の社会性の発達を目指した取組について—姿勢とコミュニケーションを中心として—」（共著発表）日本 LD 学会 大阪国際会議場、pp. 605-606. 2014 年 11 月</li> <li>7. 『『生きる力』をはぐくむ知的障害児の発達課題の在り方』（単著論文）『大阪総合保育大学紀要』第 9 号、pp. 211-224. 2015 年 3 月</li> </ol>

氏名	野田 文子 (非常勤講師)
学位	教育学修士
担当科目	家庭科教育法、初等家庭
主な業績	<p>1. 消費者教育における知的財産権・ソーシャルキャピタル—教材開発の成果と課題—, 消費者教育 Vol.28 (日本消費者教育学会), 2008年9月</p> <p>2. フィンランドの先生—学力世界一の秘密—, 明石書店, 2008年12月</p> <p>3. 教員養成における食物アレルギーの指導—意識調査と授業実践から—, 大阪教育大学紀要 Vol.62, 2014年2月</p>

氏名	八野 幸子 (非常勤講師)
学位	修士 (言語教育情報学)
担当科目	<p>Listening &amp; Speaking 3、Listening &amp; Speaking 4</p> <p>Professional Reading &amp; Writing1</p> <p>Professional Reading &amp; Writing2</p>
主な業績	<p>1 (共著) 『社会科学系学部における英語ライティング科目の可能性—大学院生対象実習系科目の実践から—』、立命館大学政策科学会 『政策科学』 15 巻 2 号 pp49～pp63 2008年2月</p> <p>2. (単著) “Developing ESP Multimedia Learning Material for Physical Therapists”、立命館大学言語教育情報研究科 『2008年度立命館大学大学院言語教育情報研究科院生論文集』 pp71～pp97 2009年3月</p> <p>3. (単著) “A Pilot Study to Develop a Vocabulary Building Activity for Listening &amp; Speaking Classes -An Attempt to Combine Warm up and Vocabulary Building Activities-”、 プール学院大学英語教育研究会 INTO THE CLASSROOM Poole Gakuin University English Education Research Bulletin、 pp32-47</p>

氏名	朴 瓊韻 (パク キョンウン) (非常勤講師)
学位	文学博士
担当科目	アメリカ文学概論、Listening & Speaking 1、Listening & Speaking 2 Listening & Speaking 3、Listening & Speaking 4、 Reading & Writing 1、Reading & Writing 2 Professional Reading & Writing 1、Professional Reading & Writing 2、
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. “Freeman’s Feminism: Women “at Vantage Points” Kyushu Studies In English Literature. Vol. 24 pp. 13-30 (April, 2007)</li> <li>2. “Crossing the Heterosexual Barrier in Cather’s Texts.” Kyushu American Literature. Vol. 48 pp. 1-16 (Nov. 2007)</li> <li>3. “Challenging Borderlines of Color, Gender, and Class: Josepha and Désirée.” American Fiction Studies. Vol. 15, No.2 pp. 291-311 (Dec. 2008)</li> <li>4. Studies on Women Characters Represented in American Novels Seoul: KSI, Feb. 2009</li> </ol>

氏名	日笠 ロウエナ (非常勤講師)
学位	ソーシャルワーカー修士
担当科目	Listening & Speaking 1、Listening & Speaking 2 Reading & Writing 3、Reading & Writing 4
主な業績	TEFL (TESOL) 資格 2003年8月, Phuket, Thailand Seminar for English Language Teachers 2009年8月 University of Oxford, UK 日本語能力試験 2級 2011年12月, 日本国際教育支援協会

氏名	平賀 健太郎 (非常勤講師)
学位	博士 (心理学)
担当科目	病弱者の心理・生理・病理
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「小児がん患児の前籍校への復学に関する現状と課題 —保護者への質問紙調査の結果より—」, 小児保健研究 66 巻 pp.456-464 2007 年</li> <li>2. 「病弱児の教育」 特別支援教育の現状・課題・未来 ミネルヴァ書房, pp.287-295 2009 年</li> </ol>

氏名	廣田 佳彦
学位	博士 (教育学)
担当科目	教育原理、道徳教育の理論と実践 (小)、道徳教育の理論と実践 (中)、教育方法の理論と実践 (幼・小)、教育実習指導 (小)、教育実習 1 (小)、教育実習 2 (小)、教職実践演習 (幼・小)
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『近代日本の教育と宗教』 (単著)、関西学院大学出版会、2008 年</li> <li>2. 『教育方法の本質』 (単著)、関西学院大学出版会、2012 年</li> <li>3. 『保育と道徳』 (共著)、保育出版社、2006 年</li> <li>4. 『人間形成とアイデア』 (共著)、昭和堂、2015 年</li> </ol>

氏名	吹原 顕子 (非常勤講師)
学位	文学士
担当科目	子ども英語教育法 子ども英語指導法 1 (子ども英語演習 1) 子ども英語指導法 2 (子ども英語演習 2)
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「小学校と中学校をつなぐ寝屋川市の英語教育—行政の視点から—」 (共著), 日本児童英語教育学会 2010 年度研究紀要 No. 29 pp. 123~137, 2010 年</li> <li>2. 『小学校英語教育の展開—よりよい英語活動への提言』 (共著), 第 11 章 2 地方自治体による先導的な試み (2)—寝屋川市, pp. 272~278, 研究社, 2010 年 6 月</li> <li>3. 『誰でもできる! 「英語ノート」でらくらく授業 5 年生用』 (共著), pp. 42~57, ぎょうせい, 2010 年 1 月</li> </ol>

氏名	松久 眞実
学位	教育学修士
担当科目	幼児理解、教育実習指導（幼）、教育実習 1（幼）、教育実習 2（幼）、重複障害者等教育論、教育実習指導（特別支援）、教育実習（特別支援）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『堺市における私立幼稚園発達障害児等巡回相談事業に関する一考察』プール学院大学研究紀要 第 54 号 p.219-233 2013 年 12 月</li> <li>2. 『私立幼稚園における巡回相談に関する実践的研究－障害のある幼児への望ましい支援のあり方とは－』（査読付）発達人間学研究 第 15 巻 第 2 号 2015 年 3 月（投稿中）</li> <li>3. 『特別なニーズのある児童が安心して過ごせる学級風土の形成に関する実践的研究』（査読付）発達人間学研究 第 13 巻 第 1 号 p.13-18 2012 年</li> <li>4. 『特別支援教育を切り口にした生徒指導－小学校における実践から－』LD 研究 一般社団法人日本 LD 学会 研究と実践 第 20 巻第 2 号 p.10-13 2011 年</li> <li>5. 『発達障害の子どもとあったかクラスづくり－通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン－』明治図書 p.12-13 2009 年</li> <li>6. 『通常の学級における発達障害児の支援に関する実践的研究』プール学院大学研究紀要 第 51 号 p.243-255 2011 年</li> </ol>

氏名	村上 祐介
学位	心理学博士
担当科目	教育心理学（中・高）、教育相談（中・高）、教育相談（幼・小）、スポーツ心理学
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『スピリチュアリティ教育への科学的アプローチ－大きな問い・コンパッション・超越性－』, ratic, 2016 年 1 月</li> <li>2. 「学校と学級への集団適応を高める教育相談の在り方－コンサルテーションと開発的・予防的アプローチに着目して－」（共著）, 『人間健康学研究』第 10 号 pp.1～16, 2015 年 3 月</li> <li>3. 『「大きな問い」とボランティア活動に関する研究－大学生のスピリチュアリティを育む一事例－』, 『トランスパーソナル心理学／精神医学』第 14 号 pp. 63～84, 2015 年 2 月</li> <li>4. 「学校予防教育プログラム TOP SELF 『自己信頼心（自信）の育成』－小学校 6 年生での実施と効果の検討－」（共著）, 『鳴門教育大学研究紀要』第 29 号 pp. 169～183, 2014 年 3 月</li> </ol>



氏名	盛岡 貴昭 (非常勤講師)
学位	TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)プログラム修士
担当科目	Reading & Writing 3、Reading & Writing 4 English 1、English 2
主な業績	Morioka, T. (2014). Implementing Cooperative Learning Principles to Teach Low English Proficiency University Students in Japan. Poole Gakuin University English Education Research Bulletin. Into The Classroom, 48-62 盛岡貴昭.(2014).「協同学習理論を活かしたペア・グループ活動への取り組み」『大阪商業大学論集』人文・自然・社会編 9巻 4号(通号 172号) PP.123-135 盛岡貴昭.(2014).「ペア・グループワークの実践ー協同学習の理論を活かしてー」『学生の参加意欲を喚起する授業方法に関する研究・実践』平成 24 年～25 年度 大阪商業大学教育活動奨励助成費報告書,大阪商業大学 PP.46-62 Kinami,N & Morioka,T.(2012). Self-motivating strategies used by adult EFL learners and university students in Japan. Temple University Japan Proceedings of the 14th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium,64-71

氏名	八木 利津子
学位	教育学修士 応用健康科学～健康教育・学校保健・危機管理・ストレスマネジメント
担当科目	養護概論・看護学概論・救急処置法・看護実習 I～IV・養護実習 I, II・養護実習指導・教職実践演習 (養護教諭)
主な業績	1.「学校危機遭遇後の心のケアと心理教育～家庭・教職員・地域との連携～」(単著)『日本ストレスマネジメント学会第 9 回学術大会・学会優秀奨励賞受賞』, 2010 年 7 月 2.「学級、学校全体で行えるストレスマネジメント～保健室からのアプローチ 3 保健室を出て行くこと～」(単著),『日常生活・災害ストレスマネジメント教育ー教師とカウンセラーのためのガイドブッカー』, サンライフ企画, 2011 年 9 月 3.「保健室のいま～ネット・ケータイ電話の普及にまつわる問題」(単著),『児童心理』, 金子書房, 2013 年 10 月 4.「保健資料作りの協働活動から～子ども・若者たちと共に学び活動の場を広げる」,「子どもの「ヒヤリハット体験」から一考～身の回りの危険場所と危険行動に着目して～」,「子ども・若者支援を考える～いのちの尊重を考える多様な学習機会～」他 (月刊連載・単著),『心とからだの健康』, 健学社, Vol.18No.194～Vol.20No.217, 2014 年 4 月～2016 年 3 月～ 5.小学校における危機対応の課題に関する一考察～食物アレルギーに着目して」(単著),『日本家政学会関西支部研究発表要旨集』, 2015 年 10 月

氏名	山田 真由美 (非常勤講師)
学位	芸術博士
担当科目	ピアノ 1、ピアノ 2、ピアノ 3、ピアノ 4
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生のための歌唱・合唱教材曲集『なごりの歌』田畑八郎 編著 (編集協力) 音楽之友社, 1999年7月</li> <li>2. ローベルト・シューマン作曲「幻想小曲集」作品 12 -詩的表象と音楽テキスト、初版に基づくエディション研究- (博士論文) 2009年3月</li> <li>3. 『モーツァルト作曲ピアノ協奏曲第 21 番』, いずみホール, 2012年1月</li> <li>4. 『山田真由美ピアノリサイタル』, ザ・フェニックスホール, 2015年3月</li> </ol>

氏名	山本 清文 (非常勤講師)
学位	体育学修士
担当科目	器械運動、体づくり運動、ダンス
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「一流競技エアロビック選手における傷害の実態についての研究」浜松大学健康プロデュース雑誌、23～29 頁 2009年3月</li> <li>2. 「一流競技エアロビック選手における傷害の実態についての研究 ユース選手を対象として」浜松大学健康プロデュース雑誌、11～18 頁、2010年3月</li> <li>3. 「男子新体操選手における傷害の実態についての研究」花園大学文学部紀要、第 43 号 2011年3月</li> <li>4. 「男子新体操選手における傷害の実態についての研究 高校生を対象として」花園大学文学部紀要、59～72 頁第 44 号 2012年3月</li> </ol>

氏名	山本 景一
学位	教育学修士
担当科目	初等算数、算数科教育法、算数科教育法 2、算数科教育法 3、教育実習指導 (小)、教育実習 1 (小)、教育実習 2 (小)、教職実践演習 (幼・小)
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『わかる算数科指導法』 (共著), 東洋館出版社, 2012年10月</li> <li>2. 『「結び目の数学教育」への導入』 -小学生・中学生・高校生を対象として- 第 4 号, 「結び目の数学教育」研究プロジェクト pp. 46～63, 2014年2月</li> <li>3. 『算数科における思考力・表現力と言語活動の一連化(パート 1)』, プール学院大学研究紀要 Vol. 55 pp. 197～215, 2014年12月</li> </ol>

氏名	山本 弥栄子
学位	文学修士
担当科目	保育内容（言葉）、保育内容（人間関係）、教育実習指導（幼）、教育実習 1（幼）、教育実習 2（幼）、教職実践演習（幼・小）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『子どもの育ちと「ことば』』（第7章第2節「伝える力によって子どもはどのように育つのか」 / 共著, 保育出版社, 2010年3月, pp.120-121)</li> <li>2. 「教育実習指導のあり方（1）～教育実習 I の結果をふまえて～」(共著, 大阪健康福祉短期大学紀要「創発」第8号, 2009年, pp.143～157)</li> <li>3. 「教育実習指導のあり方（2）～養成校としての「めざす保育者像」に関する考察～」(共著, 大阪健康福祉短期大学紀要「創発」第9号, 2010年, pp.103～113)</li> <li>4. 「教育実習指導のあり方（3）～実習を中心に据えたカリキュラムを目指して～」(共著, 大阪健康福祉短期大学紀要「創発」第10号, 2011年, pp.101～113)</li> <li>5. 『自ら挑戦する社会心理学』（第6章第2節「ノンバーバル・コミュニケーション」 / 共著, 保育出版社, 2014年12月, pp.75-76)</li> <li>6. 『生活事例からはじめる-保育内容-言葉』（第7章「言葉に課題をかかえる子どもと保育」 / 共著, 青踏社, 2016年4月, pp.137-150)</li> </ol>

【プール学院大学短期大学部】

氏名	秋武 寛
学位	修士（教育学）
担当科目	身体表現
主な業績	<p>1. 4-12歳の加齢にともなう接地足蹠の形成, 運動能力, 肥満の関連 (共著筆頭), 発育発達研究, 第70号, 1-10. 2016年3月</p> <p>2. 幼児の運動能力に対する歩数および運動強度との関係 (共著筆頭), 発育発達研究, 第70号, 17-26. 2016年3月</p> <p>3. Relationship among Motor Ability, Daily Physical Activity, and Bone Density in Preschool children (共著), Journal of Education Health Science, 57(3), 273-282, , 2012年2月</p>

氏名	臼井 正幸 (兼任)
学位	教育学修士
担当科目	教育社会論
主な業績	<p>1. 「教職10年経験者研修における研修設定に関する研究」, 大阪教育大学教育経営学研究会 教育プロジェクト研究 2006-学力認識と学力向上戦略- , pp.49~60, 2007年3月</p> <p>2. 「教職10年経験者研修における校内研修の研修設定に関する考察」, 大阪教育大学実践教育講座 大阪教育大学実践教育研究第10号, pp.53~63, 2008年3月</p> <p>3. 「教師の専門的文化の伝承に関する一考察」, スクールリーダー研究会 スクールリーダー研究第1号 , pp.10~18, 2010年3月</p> <p>4. 「教職基礎形成期における教職意識の内実に関する一考察-実践的授業とかかわって-」, 大阪教育大学実践教育講座 大阪教育大学実践教育研究第15号, pp.1~12, 2013年3月</p>

氏名	岡田 陽子 (非常勤講師)
学位	芸術学士
担当科目	器楽A、器楽B、器楽C、器楽D
主な業績	<p>1999年6月 大阪市 上海友好交流演奏会に於いてピアノ伴奏として出演</p> <p>2000年10月 和田喜世子&amp;岡田陽子ピアノデュオコンサートを開催</p> <p>2001年8月 デュオコンサートに於いてバイオリン、チェルノッフ氏と共演</p> <p>2006年7月 和田喜世子門下生演奏会出演</p> <p>2012年8月 ファミリーコンサートを開催</p> <p>2014年3月 地域コンサートを開催</p> <p>2015年3月 地域コンサートを開催</p> <p>その他、ピアノソロ及び声楽・合唱・管楽器のコンクール並びに数多くの演奏会にピアノ伴奏として出演</p>

氏名	作野 理恵
学位	教育学修士
担当科目	音楽表現1、器楽(ピアノ)A、B、C、D
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「西洋音楽思潮における Richard G. Strauss の改革と本質—器楽作品に見られる音楽表現—」, プール学院大学研究紀要 Vol.54 pp.31~45, 2013年12月</li> <li>2. 「Johann Strauss II (1825-99) Wiener Musik の本質—音楽表現の伝統と独自性—」, プール学院大学研究紀要 Vol.55 pp.11~26, 2014年12月</li> <li>3. 「Fritz Kreisler(1875-1962)音楽の本質—社会的背景と音楽表現を通しての考察—」, プール学院大学研究紀要 Vol.56 pp.13~28, 2016年2月</li> </ol>

氏名	高間 準
学位	美術修士
担当科目	造形表現 表現指導法
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「美術教育における現象学的方法やそれを可能にするダイナミズムについて」, 「美術教育」 741号, 2004年3月</li> <li>2. 「昨今の美術に係るワークショップの考察—大学との連携に関する考え方や具体的事例について」, 第44回全国高等学校美術、工芸教育研究会「滋賀大会」, 2007年11月</li> <li>3. 「表現と鑑賞のスパイラル・カリキュラムの試み」, 第61回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会「京都大会」, 2010年10月</li> </ol>

氏名	田島 真知子
学位	人間科学修士
担当科目	発達心理学、教育心理学、教育相談、教育実習、保育・教職実践演習（幼稚園）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「児童発達心理の立場から見た超低出生体重児の予後」, 日本周産期・新生児医学会雑誌 Vol. 41(4) pp. 779～787, 2005年</li> <li>2. 『子どもが虐待で死ぬとき—虐待死亡事例の分析』（共訳）, 明石書店, 2005年</li> <li>3. 「超低出生体重児の精神発達予後と評価：軽度発達障害を中心に」, 周産期医学 Vol. 37(4) pp. 485～487, 2007年</li> <li>4. 「超低出生体重児の幼児期から学齢期までの精神発達—発達指数の縦断的变化—」, 周産期医学 Vol. 42(5) pp. 623～626, 2012年</li> </ol>

氏名	田中 あき子（非常勤講師）
学位	教育学士
担当科目	生活

氏名	西尾 宣明
学位	文学修士
担当科目	国語、言語表現
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『南島へ南島から 島尾敏雄研究』（共編著），和泉書院, 2005年4月</li> <li>2. 『論文集 子どもへの視点』（共編著），聖公会出版, 2005年8月</li> <li>3. 『兵庫近代文学事典』（共編著・編集委員長），和泉書院, 2011年10月</li> <li>4. 『新版 日本語表現法 - 「書く」「話す」「伝える」ための技法』（編著），樹村房, 年1月</li> <li>5. 「国語教育と小説読解の多様性 - 横光利一『頭ならびに腹』を教材に」西播国語 第43号, pp36~40, 年2013年11月</li> <li>6. 「絵本における画像イメージと言語表現 - 宮沢賢治『注文の多い料理店』考一」, プール学院大学研究紀要 Vol.54 pp.15~26, 2013年12月</li> <li>7. 『新訂版 プレゼンテーション概論』（共著），樹村房, 2014年3月</li> <li>8. 「戦後性、身体性、&lt;第三の新人&gt;-島尾敏雄と庄野潤三の一九五〇年前後-」, 昭和文学研究第72集, pp38~50, 2016年3月</li> </ol>

氏名	明神 規子
学位	教育学修士
担当科目	教育課程総論、人間関係指導法、保育内容総論、教育実習、保育・教職実践演習（幼稚園）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己統制と人との関わりに関する考察 保育学会報告 2001年5月</li> <li>2. 保育の質を高めるための保育実践（観察）記録の役割 保育学会報告 2012年5月</li> <li>3. 保育の質を高めるための保育実践（観察）記録の役割(学位論文) 2013年3月</li> <li>4. 乳児保育計画論 2015年5月（合同出版）</li> </ol>

氏名	保田 恵莉
学位	教育学修士
担当科目	教職論、環境指導法、言語指導法、教育実習指導、教育実習、保育・教職実践演習（幼稚園）
主な業績	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「こどもの心によりそう保育シリーズ」：「保育者論」「保育原理」「保育・教育課程論」（共著・福村出版）2012年5月</li> <li>2. 「幼児教育の追及とモンテッソーリ教育」（単著・花園大学研究紀要第22号 PP. 49-57）2014年3月</li> <li>3. 「モンテッソーリ教育と“幼稚園教育要領”及び“保育所保育指針”における考察」（単著・花園大学「福祉と人間科学」第24号 PP. 11-21）2014年3月</li> <li>4. 「乳幼児の感性育成絵本(ねこくんのハッピーバースデー)」(共著・美術教育研究所)2014年10月</li> <li>5. 「モンテッソーリ教育の文献から伝承される理論-子どものこころの発見者-」（単著・日本福祉図書文献学会・学会誌）2014年11月</li> <li>6. 「保育者のまなざし(3)乳幼児の心を育む絵本研究-創作絵本を通じた読み聞かせから-」（単著・幼年児童教育研究第27号）2015年3月</li> </ol>

氏名	山本 夏実（非常勤講師）																								
学位	音楽学士																								
担当科目	器楽A、器楽B、器楽C、器楽D																								
主な業績	<table> <tr> <td>大音コンサート</td> <td>平成4年</td> </tr> <tr> <td>ピアノジョイントコンサート</td> <td>7年</td> </tr> <tr> <td>ムジークフロイデピアノコンサート</td> <td>9年</td> </tr> <tr> <td>以上ピアノソロ出演</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イタリア声楽コンコルソ</td> <td>平成3年</td> </tr> <tr> <td>神戸声楽コンコルソ受賞記念コンサート</td> <td>4年</td> </tr> <tr> <td>摂津音楽祭</td> <td>5年</td> </tr> <tr> <td>新波の会日本歌曲コンクール</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>南山城ドイツリート夏期講習会参加コンサート</td> <td>同年</td> </tr> <tr> <td>若い音楽家たちの飛翔</td> <td>8年</td> </tr> <tr> <td>ベストプレイヤーズコンテスト入賞者演奏会</td> <td>9年</td> </tr> <tr> <td>以上ピアノ伴奏出演</td> <td></td> </tr> </table>	大音コンサート	平成4年	ピアノジョイントコンサート	7年	ムジークフロイデピアノコンサート	9年	以上ピアノソロ出演		イタリア声楽コンコルソ	平成3年	神戸声楽コンコルソ受賞記念コンサート	4年	摂津音楽祭	5年	新波の会日本歌曲コンクール	6年	南山城ドイツリート夏期講習会参加コンサート	同年	若い音楽家たちの飛翔	8年	ベストプレイヤーズコンテスト入賞者演奏会	9年	以上ピアノ伴奏出演	
大音コンサート	平成4年																								
ピアノジョイントコンサート	7年																								
ムジークフロイデピアノコンサート	9年																								
以上ピアノソロ出演																									
イタリア声楽コンコルソ	平成3年																								
神戸声楽コンコルソ受賞記念コンサート	4年																								
摂津音楽祭	5年																								
新波の会日本歌曲コンクール	6年																								
南山城ドイツリート夏期講習会参加コンサート	同年																								
若い音楽家たちの飛翔	8年																								
ベストプレイヤーズコンテスト入賞者演奏会	9年																								
以上ピアノ伴奏出演																									



